



12月25日

南陽市議会議長 遠藤 榮吉 殿

無会派 遠藤 榮吉

令和7年度 会派先進地等調査の報告について

このことについて、次により先進地等調査を実施いたしましたので、南陽市政務活動費に関する内規第4条の規定により報告いたします。

項 目	調 査 ・ 研 修 内 容
調査期日	令和7年9月24日(水)から26日(金)まで2泊3日
調査場所	① 福岡県添田町議会 ② 佐賀県佐賀市 株式会社かわでん ③ 佐賀県 武雄市立図書館・こども図書館
調査目的	① 日田彦山線のBRTに関する町の取組みについて ② 株式会社かわでん 九州工場の現地視察について ③ 武雄市立図書館・こども図書館の視察について
調査概要	<p>このたび、福岡県添田町、佐賀県佐賀市および武雄市を訪問し、地域交通の新たな形として注目される BRT の取組み、本市ゆかりの企業である株式会社かわでん九州工場の現状、そして先進的な図書館運営の事例について視察する機会を得た。</p> <p>1. 日田彦山線 BRT「ひこぼしライン」に関する視察（福岡県添田町）</p> <p>(1) 視察の背景</p> <p>2017年の九州北部豪雨により甚大な被害を受けた日田彦山線は、鉄道での復旧が困難であったことから、2023年8月に BRT として再出発した。</p> <p>沿線自治体と JR 九州が協議を重ね、地域の将来を見据えた交通体系として「BRT ひこぼしライン」が誕生した経緯は、本市が抱えるフラワー長井線の課題とも重なる部分が多い。</p> <p>(2) 添田町からの説明</p> <ul style="list-style-type: none"> 被災箇所は 63 か所、復旧費は約 70 億円と試算 鉄道復旧ではなく BRT を選択した理由は、費用負担と持続可能性 JR 九州が事業主体、運行は JR 九州バスが担当

- ・BRT 導入にあたり、住民説明会を重ね、理解醸成に努めた
- ・BRT 専用道の整備により、定時性と安全性を確保

(3) 乗車体験と所感

添田駅から夜明駅までの区間を実際に乗車した。小型電気バスは乗降しやすく、USB ポートなど利用者目線の設備が整っていた。

専用道を走行する際の安定感は鉄道に近く、一般道との組み合わせにより柔軟な運行が可能であることを実感した。

乗車中にお話を伺った地元のご婦人からは、「電車より本数が増えて便利になった」との声が聞かれ、地域交通としての一定の評価がうかがえた。

(4) 本市への示唆

米坂線の長期運休、フラワー長井線の厳しい経営状況を踏まえると、BRT は現実的な選択肢の一つとして検討すべき段階に来ている。

導入の可否を判断するには、①利便性向上 ②維持費の軽減、③観光資源としての活用、④住民理解の醸成 など、多角的な視点が不可欠である。

議会としても、交通弱者の声に寄り添い、地域の将来に責任を持つ立場から、より深い議論を進めていく必要があると強く感じた。

2. 株式会社かわでん九州工場の視察 (佐賀県佐賀市)

(1) 視察の目的

本市に本社工場を置く株式会社かわでんは、2026年に創立100周年を迎える歴史ある企業である。

上山市への移転計画が示され、市民の間に不安の声もある中、九州工場の現状を確認し、今後の方向性を伺うことを目的とした。

(2) 企業側からの説明

- ・従業員数は全体で約800名、九州工場は約190名
- ・「業界ナンバーワンからオンリーワンへ」を掲げ、技術力向上に注力
- ・創業者の「地域の暮らしを支える」という理念は今も継承
- ・100周年を迎えるにあたり、企業としての新たな展望を準備中

(3) 視察内容

役員の皆様から丁寧な説明をいただき、工場内では最新の設備と効率的な生産体制を確認した。

(4) 所感

かわでんは本市にとって欠かせない企業であり、その存在は地域経済の柱

	<p>の一つである。</p> <p>今回の視察を通じ、企業側の地域貢献への強い意志を確認できたことは大きな収穫であった。</p> <p>議会としても、企業の発展と地域の安定が両立するよう、最大限の支援と協力を続けていく決意を新たにしました。</p> <p>3. 武雄市立図書館・こども図書館の視察（佐賀県武雄市）</p> <p>(1) 視察の目的</p> <p>全国的にも注目される「新しいスタイルの図書館」の実例を学び、本市の公共施設運営の参考とするためである。</p> <p>(2) 施設の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館らしからぬ開放的で洗練されたデザイン ・蔦屋書店・スターバックスが併設され、滞在型の空間を実現 ・子ども図書館にはカフェを併設し、親子で過ごせる環境を整備 ・年間 200 件を超える視察があるほど全国的に注目されている <p>(3) 所感</p> <p>利用者が自然と集まり、長く滞在したくなる空間づくりは、公共施設の新しい可能性を示している。</p> <p>地域イベントやワークショップを通じ、市民の交流拠点としての役割も果たしており、文化の発信基地として非常に魅力的な施設であった。</p> <p>4. 総括</p> <p>今回の視察を通じ、「地域の未来をどう描くか」という問いに対し、多くの示唆を得ることができた。</p> <p>BRT による持続可能な公共交通のあり方、地域企業との連携強化と産業振興、そして、市民が集う文化拠点の新たな形。いずれも本市の将来を考える上で欠かせない視点である。</p> <p>議会として、そして市民の代表として、これらの学びを今後の政策判断にしっかりと生かしていく所存である。</p>
その他	